

り が な 氏 名	おのせ ゆうり 小野瀬 悠里	都 道 府 県	東京都
所属/肩書	江東区立八名川小学校 教諭（俳句・ユネスコ主任）		
私のESD活動	ESDの理念を礎に、不確定な未来を生き抜き、よりよく発展させる力を持った子どもを育てる		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

江東区立八名川小学校の校内研究を通じて活動してきた。本校では「ESD カレンダー」を1つの端緒として「つながり」を意識したカリキュラムマネジメントに取り組んでいる。

たとえば『ごみとわたしたち』という学習単元では、区内にある清掃工場や埋め立て地などの施設、ごみ戦争などの歴史、家庭から出るごみ調査といった実体験など、ごみに関するたくさんの情報をつながりながら、育てたい児童像に迫っていた。また『八名川未来遺産』という学習単元では、未来に残したい地域の遺産について考えた。この時には、社会的な認知度が高い松尾芭蕉の史跡だけでなく、「みんなが遊んでいる公園」「卒園した幼稚園の隣の神社」など、地元ならではの思いと社会的な価値をつながりながら、児童が活動できるようにした。

これらの活動の背景にある先駆的な取り組みと言えるのが「ESDカレンダー」による学習観の見直しである。小学校で学習する教科をそれぞれ単独でみるのではなく、教科間の「つながり」を意識したカリキュラムマネジメントを行っている。また、単元を貫く児童の動機付け（本校では”学びに火をつける”と呼称）を意識した問題解決的な学習過程づくりを行うことで、学習に対する児童の意識が高まったり、学習活動が深まったりした。

これらの成果は、教師、児童、保護者や地域、それぞれの意識の変化として現れている。教師は、杓子定規な判断に終始せず、児童の多様な思考を許容して授業に臨むことができるようになった。児童は、自分らしさを表現することに価値がおけるようになった。保護者や地域は「学力=テストの点数・知識量」という考えに変化をもたらし、家庭全体で学習に協力をいただけることも増えた。

○「江東区立八名川小学校」 <http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

まず、文部科学省主催の研修会等への積極的な参加を通して、自身の知識、経験を深めていきたい。校内においても、まず自分がESDの視点をもって授業づくり、単元計画づくりに臨む。クラスから学年へ、学年から学校へと拡大ができるように、理念・理論だけでなく実践と振り返りを積み上げていきたいと考えている。

次に、校内の研究会や自らの授業実践を通して、ESDの視点に基づいた授業づくりの成果を、ユネスコスクールのネットワークを通して発信していきたい。ユネスコスクールのネットワークは世界にもつながっているので、八名川小学校には教員に限らず、多くの国からもお客様が来校する。こういった環境をチャンスに変えていくべく、まずは実践者として自分の足下をしっかりと固めたい。そして、いざと言うときは世界に向けて成果を語るように日々の研鑽を積む、という形で、ESDの発展に貢献したいと考えている。